



“ 最初の一步 ”

理事長 高杉 洋史



千里の道も一歩から
子どもたちが里山で遊ぶ姿に魅力を感じています。

農業の師匠の山路さんの畑は雑木林に隣接していて、数十年育った木で日当たりも悪くなってきたので一念発起して少し手入れをしました。冬休み中にスクールバスの運転の先生方が、チェーンソーで大きくなりすぎた木を剪定してくれました。畑の日当たりもよくなりスツキリしました。子どもたちが入って遊ぶにはまだまだ整備を重ねないといけません、最初の一步はなかなか大きな一歩であったと思っています。園庭には赤土山がありますが、時にはもう少し自然にあふれた環境で遊ばせてあげたいと思っています。ハチに刺される心配などの安全性を考えると晩秋から早春の間になります、子どもたちの冒険心をくすぐる作戦を練っているところです。

時かぬ種は生えぬ

ドリカムタイムで年中さん・年長さんと植えた大根とほうれん草の種が発芽し立派に育ちました。種から育てた野菜はもったいなくて抜いて食べるには勇気がいりますが、私が代表して食べてみるとお味も上々です。大根を抜いてしまうとポットが寂しくなったのでレタスを植えておきました。このレタスの苗は秋口に結実した種を適当にまいたものです。こんなにうまく発芽し苗になるとは思いませんでした。ダメモトでもやってみるものです。

このほかカーネーションの脇芽を土に挿しておいたら思いのほかたくさん根付きしました。春に花が咲いたら最高です。

大晦日が過ぎ元旦になりました。私にとっては70回目の元旦です。2023年の第一歩が始まりました。今年の最初の一步は健康維持の勉強を始めることです。

子どもたちの健康を考えるのはもちろん自分の健康のために今まで以上に気を使って勉強しようと思っています（特にボケない方法）。適度な運動をすることと食生活に気を遣うことが必要と多くの本に書いてあります。食生活では塩分摂取量を10g/日以下、できれば7,8グラムにしたらいという提言が多いです。まずは寒さに負けず、運動場に出て子どもたちと一緒に遊ぶことを心掛けます。寒いだろうな。子どもは強い。今年も保護者の皆様と幼稚園の先生と社会の皆様の力添えを得ながら充実した幼児教育を実現していきましょう。





“ゾウの耳・アリの耳に学ぶ”

一耳は口の2倍、

話すことより聴く力



園長 高杉 美稚子



あけましておめでとうございます。今年も園児達保護者の皆さんにとって実の多き一年でありますように願っています。

年度末で何かと「理解」「協力を頂くことが多い」まとめの学期となります。私達も園児たちの為に心を尽くし、思いを尽くし精一杯頑張ります。心を一つにして頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、年末、また年の初めに当たり初心に帰ることが大事だなあと思うことがあり、昨年を振り返って、園長になったころの初心を思い出し学ぶことにします。

幼稚園のマークをゾウさんにしたのは、その当時の事です。それから、古塚、玄海共に、玄関に置いてあるゾウの看板や、吉塚ゆりの樹幼稚園にある、御影石で出来たゾウさんにも思いを込めておりますが、小さな目小さな決断、小さな志の意味であっても、ゾウの目のようにまっすぐ前を向いて、大きな耳は人の話を口の数おしゃべり、自分のことを話すより、口の2倍の耳で相手の話に興味を持って、まずはゆっくり聞くことが出来る、そして、いつも、冷静にとっさり、ひるまず、一歩を踏み出す勇気を持つ意味を込めてゾウのマークにしたことを思い出します。もちろんその時のアンケートで園児が一番好きな動物がゾウだったこともあります。いろいろな思いがこもったゾウさんですが、今年一番思っているのは『ゾウのダンボのように大きな耳で人の話が聞ける人にならましょ』が初心に帰っている思いです。

にもかかわらず、つい、自分の思いが先に立ってしまっていることがあります。特に、相手を思いやつの考えや、行動、言動であるという思い込みの時つい、そのつもりは全くないのに、自分の考えを結果として押し

付けていたなあということがあります。後になって冷静に考えてみると、気づくのですが、その時はつい、なぜ相手は私の話を聞かないのだろうと思ってしまいます。そして、どうしてそのような否定的な聞き方をするか、どうしてそのような否定的に答えるのか、戸惑い、躊躇してしまいます。相手の立場になってゆっくり考えてみれば、自分の方からまず聞いてから受け入れてから、答えれば良かったと反省するのですが。

そして、後では、そのような答え方をしてくれただけこそ、自分の方が相手をまず受け止めてなかったと気づくことができ、逆にそのことに気づかせてくれたことに、感謝をするのですが、直後には気づけないのが、まだ、人として志が低いと感じるところです。

そのような言い方をしなければ、決して、自分の直したい、その行動には気づけなかったのですから、そういう意味では必要があった、そのことに気づく為に人は自分の前にいてくれたのですね。そう思えば、全ては気づきと反省と、学びと感謝しかありません。そのことに気づけば、自分が成長できるのですから。ありがたいことです。

子育ても同じかもしれません。子育て中の子どもの反抗期や困ったことは大変ではなく、どうしてこのような行動をするのか、親や大人に気づきを与えてくれるものかもしれません。自分がそのことに気づき、教えてくれてありがとうと感謝できた時、自分の行動が変わり子どもたちの行動やまわりも変わるのかもしれない。

私の大好きな人の言葉に「頑張れ、頑張れ、と言わなくても、たとえその人の為に何も出来なくても、自分が頑張っていることでその人を支えていることになる」という言葉があります。誰しも自分に自信がなく、自分

の力など微々たるもので、誰の支えにもなっていない、必要とされていないなんて思いがちですが、この言葉はそんな私にも勇気をくれます。

誰が見ていなくても、誰の支えにもなっていないと思う時でさえ、自分が変わりの成長する、それがどんな無様な失敗であっても、どんなに些細な事であっても、心を込めて、それを勇気を持って実行すること、伝えることで、誰かの力になる、きつと後に続く人の道しるべになる、だから今年も人の話をよく聞き、失敗から学んで成長することが大切だなあと、玄関のソウさんを見ながら、そんなことを考えた年始でした。

人の話に耳を傾けるという意味で、一つ紹介したい話があります。いつも私の話の巻頭言ですので、他の方の話に耳を傾けて頂くのもいいかもしれないと思い、昨年植松電機 代表取締役社長、植松 努氏の話を聞く機会に恵まれましたのでご紹介します。これで二度目です。一度目は十五年くらい前でした。

「コロナ禍の前で、そのころのミセスカレッジではよくお話していた内容ですが、彼は、中学校まで、紙工作ばかりをしていて、周りから、とても馬鹿にされていたそうです。そして飛行機を紙工作で作れるので鉄板でも作れるのではないかと思って創ってみたらできた、作り方は英語でしか書いてないので、その単語だけ覚えて作った、それが今のロケット造りに繋がったという、あの「下町ロケット」の元になった方です。今回は、植松氏の話を要約して是非お伝えしたいと思います。



「思いつは招く」〜夢があれば何でもできる〜

「無理、できない」という言葉からうつしだらいいかをまず自分が考える、否定から肯定へ、受け止めて、だつたらこうしたらと未来予想図を提案できる人になる、そうすれば皆の夢は叶う」



1. 夢

夢はたくさんあったほうがいい。多くあればあるほど、重なり合つてどんどん夢がなつていく。そして、人はやったことがないことは失敗するものだから、人生は一回しか経験できないから、だから失敗する。人間は皆失敗する、失敗はダメなんじゃない、失敗は失敗したというデータがあるだけ、乗り越えたら力になる、そのデータをものに失敗したらどうするかを考えて準備すること、そうするとそれが安心につながる。

2. 失敗に罰を与えない 一つしだらの提案をする

失敗しないためには、何もしないこと、できることだけやる、言われた通りにする、最初はそれでもいい、そしてそれでは何も生まれえない、守・破・離が大切、そして次に、プランBを考えることが大切、自分自身で、子ども自身でプランCやDが考えられるといい、どうやったら、失敗しないか、次の方法を考える、そしてこうしたらを提案する。そうすれば夢は繋がる、人の夢も自分の夢をつぶさないことが大切。

3. 人と人の出会いが大切



人と人の出会いには意味がある、私たちは出会つてしまつた、人の人生は出会いで変わる、未来は変わる、思い通りに自分で変えることが大切。自分は

足りない、人も皆も足りない、そして、足りないことはダメなんじゃない、足りないからこそ助け合える。足りないから不安になる。そして、不安になるからこそ、不安の向こうに喜びがある。ほんのちょっとした勇気があればいい。

4. 必要なのは厳しさではなく優しさ



ちゃんとしないと厳しくいわれると、自分でちゃんとしなければならぬと思い、人を頼らなくなる。そうすると弱みを見せなくなり、人に心を開けなくなる。結果、一人になつてしまふ。

人はちゃんとしていなくて当たり前。だから必要なのは優しさ。優しさで、人を助けることができる。

人を助けるために必要なことは3つ

- ① 何に困っているか観察する。
- ② その結果どのようなことがおこるか予測する。
- ③ その時、自分ならどうするか、どう助けるか考える、自分ができる事はいっぱいあるのだから一人ではできないことを、助け合つて目指すのが社会ひつくり返す会社。優しさは優れると書く、昨日より優しい人間になれたかなあを自分に問うてみよう

5. 人は皆違う、違うは素敵



人は違うのに、違うといういろいろ言われる。「人と違うことはおかしい」「ことではなく」「だから必要とされる素敵な個性」「違うは素敵」そこに奇跡が起る。

子どもはみんな違う、違っていい。中途半端でもやらないよりいい。教育は失敗を安全にさせる場所。



6. 発明の「ツ」

嫌な事、理不尽なことは発明になる、だから嫌なことを我慢しない、なんで嫌なのかなあを考える。自分を助ける方法を考えたら発明になる。寒さを我慢したら原人になる。

嫌なことを我慢しないで、解決策を考える。時代は変わって、全てロボットにとって代わる時代が来ている。これからは考える人が必要になる。やったことがないことをやりたがる人、諦めない人、工夫する人が必要になる。生まれた時から諦め方を知って生まれる人はいない、諦めなくなったら、夢を語ること、自分の夢を喋れば仲間ができる、やりたいことはやりたい人と、やったことがある人と仲良くなれる。

7. 大好きなことはパワーになる

大好きなことはパワーになる、誰にも、未来はわからない、未来を諦める必要はない、誰にも可能性はある、好きなことをやめなかったら、好きなことで仲間を増やしたら可能性が増える、そこで素敵な人、成功した人のまねをすればいい、最初は模倣から始まる、学ぶは「まねぶ」なのです。大好きなことは努力するのが苦にはならない、なんでも人にしてもらい、決めてもらい、「楽」をずっと「無能」になる。楽ではなく「楽しさ」を探そう。「どんなことも楽しめる心」を持てる人になろう。お金がなければ、自分で作る、自分で作るいろいろなことが出来るようになる、上手になる、出来ることを増やしたら、能力になる、仕事になる、お金は使えば減るけれど、努力し、得た能力は使えば増える。そしてパワーになる。

8. 仲間で、可能性を奪ってはいけない

だから仲間で、可能性を奪ってはいけない。人の可能性を奪うのは殺人と同じである。どうせ無理、でき

てないと、命令や注意ばかりしていると自信と可能性を奪う、その結果不安になり、人の目が気になり、引きこもりになる、話せなくなる。

本当の責任のとり方は、①自分自身が小さな目標を掲げやり遂げる。②失敗の再発を防ぐ。③生き延びること（命を大切にすること教育）をすること

9. 「命令と指示」から「相談とお願いと感謝」へ

命令や指示するのではなく相談しお願いすることが大切、そして起きたことすべて感謝していきましよう。

言い尽くせませんし、植松氏の人柄が伝わるお話の仕方までお伝え出来ないのでもどかしいのですが以上が植松さんのお話です。興味を持たれた方は植松さんのYouTubeもご覧下さい。

植松さんのお話を聞き、更にゆりの樹幼稚園の教育理念が必要だと考えます。

人のいいところに焦点を当てよう、「ごめんなさい、わからない、教えて、助けて、ありがとう」を伝えていこう。「自分の目で見、耳で聴いて、心で感じて自分で決めよう。人の話を聞こう。人の考え方を柔軟に受け止めよう。だって、どうせ、でも」を言うより、今、自分が何が出来るか考えて、できる小さな行動変化の一步を、勇気をもって踏み出そう。そのことを諦めない気持ちで根気よく続けよう。

物事の画面を見て柔軟であることが大事ですね。そう思えば、冒頭の初心ソウの耳のように「人の話をよく聞き、感じて受け止める」と同時に、それでは辛い時はアリの耳で「聞き流す力・鈍感力」を持つことも大切ですね。

今年度書いてきた、私の口癖が職員のお言葉になったことを纏めて今月の巻頭言を閉じます。

★ゆりの樹の愛言葉 「いいね、素敵だね、大好き！」 「すべてだいじょうぶ！」

「二つの道は 選べない」

「人生に失敗はない」

ピンチはチャンス
学びと再チャレンジ
成長があるのみ
失敗した人は
チャレンジした
勇気の証拠
転んだら、何かを
掴んで立ち上がる

「Never give up」諦めない事
一生懸命頑張ったならば
諦めてもいい。
手放す事、行動しない事も
一つの行動
物事の画面を見て
別の道を選べばいい
とった行動、選んだ道が
良かったと思う生き方を
すればいい

「どうしたいか 決めるのは自分」

いじけるのは自分を辛くする
すべきなのは息だけ、
「あなたはあなた、私は私、
自分がどうしたいか」
が大切

「落ち込むことは 成長につながる」

暗い穴に落ちたら、
ホップ・ステップ・ジャンプ
何倍も成長を
感じられる

「感謝することは 自分への最高の承認」

ご意見はファンレター
悪口はハッピーコール
賞賛の裏返し
期待されている証拠、
感謝あるのみ

「シンプル イス ベスト」

全ての答えは自分の中にある
そして本当の答えは
心の目で見、心の耳で聴いて
体で感じて 心で決める

自分軸で生きる

「逆境は力」

逆境力こそが人生の困難を
乗り越える力となる
この経験が必ず生きてくる

どんなに情けない姿でも
一生懸命努力した姿は
次に続く人の道しるべ
勇気になる

「必ずうまくいく、 今が最高に幸せ 今日が人生で 一番若い日」

行動しないで
後悔するより
行動して学ぶ
人生は二度と来ない。
自分の為の、自分自身の人生

最後まであきらめない心、何があっても
それを乗り越えていく心育てること

輝く未来をめざし大樹のようにすくすくと伸びる子ども達・・・
「ゆりの樹幼稚園」の願いです。